

お知らせ

- ・ 2025 年 5 月 18 日に総会を開き、2024 年度の決算、2025 年度の予算案、活動計画、役員人事、新会則につきまして賛成多数により承認されました。
- ・ 2025 年春の大会が 5 月 18 日に行われました。
優勝: 加藤裕之 六段
準優勝: 篠崎悠紀 八段
- ・ 6 月 15 日に「ごせんりーぐ」との交流戦を行いました。
- ・ 10 月 4～5 日に小鹿野にて合宿を行いました。
- ・ 連絡は主に電子メール・LINE で行っています。メールのアドレス変更等がございましたら、幹事までお知らせください。LINE グループにもぜひご参加ください。

活動予定

- ・ ごせんりーぐ・下地会交流戦 2 月 15 日(日)
- ・ 2026 年総会・春の大会 5 月 17 日(日)

会員情報

- ・ 会員数 31 名 (2025 年11月16日現在)
- ・ 2025 年 4～10 月に、新たに 2 名の方が入会されました。
富士原康浩さん ごせんりーぐ所属で、下じょ会等に参加されています。
大淵和代さん 下地玄昭先生の妹さんで、大淵盛人九段の夫人、浩太郎五段の母です。
- ・ 2024 年 4 月～25 年 10 月に以下の方が退会となりました。ありがとうございました。
宮島英雄さん(逝去)、阿部彦弥太さん、長澤綾子さん、佐久間順三さん、西村登志子さん

会員近況

- ・ 会員の佐々木孝次さん、奥真也さんが新刊を出版されました。

『増補 母親・父親・掟』



佐々木孝次 著 セリカ書房

ラカンの精神分析理論に
抛りながら、幼児が成長の
途上で出会う母親(自然)、
父親(象徴)、掟(自然)の意
味を探るとともに日本思想の
淵源・原型を柳田國男、丸
山眞男、森有正他の言説に
探り、精緻に検証する。

『AI に看取られる日』 2035 年の「医療と介護」



奥 真也 著 朝日新聞出版

画像診断や創薬など、医療に
AI 技術が導入されるようになって
久しいが、今後この流れはま
すます加速し、診療や介護、看
取りの場面にも AI は欠かせな
い存在となる。

未来の医療が描く、これから
の生き方、死に方とは? 直面
する変化と課題、打開策を最新
研究から論じる。

下地会 活動内容

- ・ 研究会 第 2・4 土曜 午後
有楽町囲碁センター
- ・ 下じょ会 第 3 日曜 午後
囲碁サロンじょじょ (高田馬場)
- ・ シンヤ会 月 1 回 平日夜 (不定)
囲碁ファースト (市ヶ谷)
- ・ 浦安指導碁会 月 1 回 (不定)
浦安市民プラザ Wave101
- ・ 池袋教室 第 2・4 金曜
池袋コミュニティカレッジ
- ・ 幽玄の間指導碁 随時
- ・ 下地会ホームページ
<https://shimojikai.wsfpro.net/>
- ・ 下地先生のブログ
<https://simojikai.hatenablog.com/>
- ・ 下地会 LINE グループ

会長就任のごあいさつ

奥 真也

ようやく涼しくなってきました、と思ったら我が世の秋、は一瞬。もう冬ですよ。酷暑が来年の夏まで連綿と続くかとさえ思いましたが、逆に過ぎ去れば、暑さも微妙に懐かしい。しかし、涼しいのはほんとにありがたい。石が持ちやすい季節になりました。そして、鍋とか。



さて、ちょっと囲碁との出会いについて…いや、正確には「再会」なのですが。小学生のときに少しやっただけで、長いこと囲碁には接しなかった。東大に入ったときに、一瞬、囲碁部の部室ものぞいて、ちょっと試験対局みたいなのもしてもらったけど、なんだか相手にしてくれなさそうな空気感で、結局入らなかった。他にもやりたいことはいっぱいあったから。二十六、七歳のころ、医師にはなったもののちょっと心身の調子を崩し、毎日がブルー。あるいは灰色。そんなとき、ふと文京区の囲碁教室（白江治彦先生）を見つけて、「暇ツブシにやってみるか」と打ってみたら、きっちりとハマることになりました！

しばらくして週刊碁の三行広告に「下地プロ特訓教室」の文字を発見。なんだか凄そうだなと参加してみたら、気さくな先生と一癖ありそうな人ばかりの集団…でも、強くなりたかったので、今回は尻込みせず、爾来、三十六年、偶然に齡が一つ違いの下地先生と長く3子局を続けさせていただいております。

先生からは、「思ったほど強くならなかった」派に分類されています。折に触れ、「意外と大したことなかったね」とからかわれたり。ま、その通りなんです。先生は置き石減らそうとたくらむけど、私はいつも勝てる態勢でいたいので、置き石減はいつも固辞しています。

家庭では、娘二人に囲碁を「必修科目」として課してきた。ピアノや水泳、他の習いごとはやめても、囲碁だけは、やめない、が不文律。長女（大学六年生）も次女（高校三年生）も内心はわからないけど、ずっと続けてくれています。プロの先生からヒントをもらって、父は、「勝たない」ことだけを目標に親子対局を五百局以上。長年、家庭内「咬ませ犬」として活躍していました。そのおかげで、二人と

も高校の団体戦で優勝してくれて、これは本当に囲碁好き冥利だと思っています。

仕事は医師。でも、医師といっても、普通のイメージと異なり、白衣を着ることはまれ。医療の未来を予想する、占い師のような仕事をしています。水晶玉は使いませんが。謂わば、「医療未来予報士」。（正確には医療未来学者ですが、まあどっちでも。）囲碁も未来を読むゲームなので、ある意味、仕事も碁も同じ地平です（どっちもたまに大ハズレしますけどね、一所懸命やっていればよいのです（きっぱり））。

これからの目標は、もちろん「もうちょっと強くなりたい」。でも「下地先生との対局では、置き石を減らしたくない」。なぜなら——勝ちたいからです。先生、下地会の偉大なる咬ませ犬の御席、ぜひよろしく、お願い致します！

そんな感じで、皆さんが気楽に長く楽しめる会を目指して、会長を務めさせていただきます。なにとぞよろしくお願いいたします。

2025 年 合宿

合宿が10月4～5日に、秩父・小鹿野の「越後屋旅館」で行われました。参加者は以下の9名です。

芥川さん、伊東さん、大石さん、
加藤さん、佐々木(龍)さん、長南さん、
平野さん、小嶋さん、下地先生

大石さんは怪我されて足がお悪い中、車でいらっしやいました。小嶋さんは日帰りでの参加でした。

来年も同時期に実施予定です。皆様のご参加をお待ちしています。



2025 年 春の大会

下地会恒例の秋の大会が、5月18日(日)に「囲碁サロンじょじょ」(高田馬場)で行われました。参加者は20名で、結果は以下の通りです。

長南一豪	九段	×	伊東	○	西	△	篠崎	○	山日	
五味誠二	九段	○	奥	○	小嶋	○	伊東	×	篠崎	3勝
伊東勇二	八段	○	長南	○	芥川	×	五味	○	今井	3勝
奥 真也	八段	×	五味	×	篠崎	○	芥川	○	小嶋	
篠崎悠紀	八段	○	平野	○	奥	△	長南	○	五味	準優勝
芥川長行	七段	○	山日	×	伊東	×	奥	×	平野	
今井 賢	七段	×	西	○	山日	○	小嶋	×	伊東	
佐々木龍男	七段	×	小嶋	○	浅井	×	山日	○	古川	
小嶋孝輔	七段	○	佐々木	×	五味	×	今井	×	奥	
西 昌幸	七段	○	今井	×	長南	○	浅井	×	加藤	
山日幸二	七段	×	芥川	×	今井	○	佐々木	×	長南	
浅井八郎	六段	×	加藤	×	佐々木	×	西	○	野波	
加藤裕之	六段	○	浅井	○	坂爪	○	下川	○	西	優勝
平野高志	六段	×	篠崎	○	古川	○	吉川	○	芥川	3勝
坂爪寿恵広	五段			×	加藤	○	小林	×	下川	
下川 滋	五段	○	吉川	○	小林	×	加藤	○	坂爪	3勝
古川和子	五段			×	平野	○	野波	×	佐々木	
小林克子	三段	○	野波	×	下川	×	坂爪	○	吉川	
野波 俊	三段	×	小林	×	吉川	×	古川	×	浅井	
吉川正信	三段	×	下川	○	野波	×	平野	×	小林	

▼勝負強い賞＝篠崎

▼運がいい賞＝長南・山日

▼下地賞＝小嶋・野波・吉川



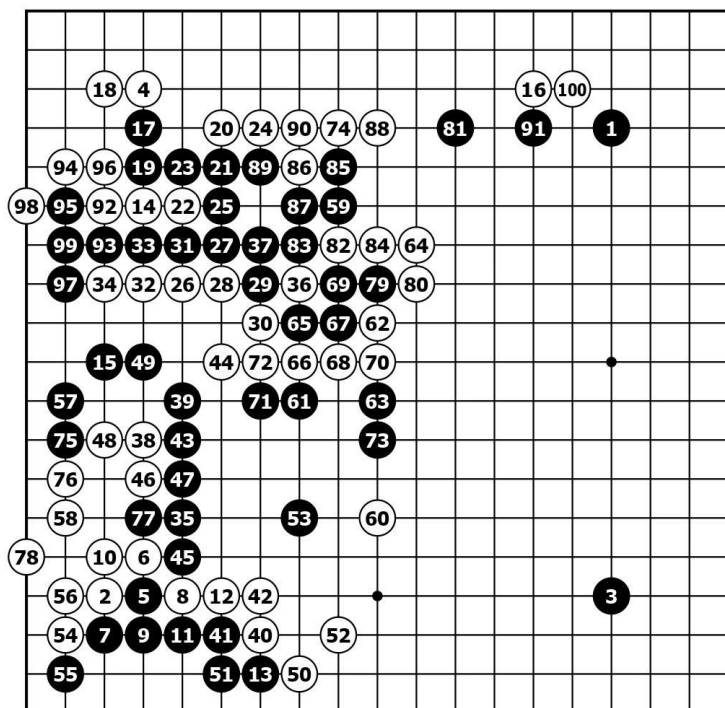
会場を提供していただいた平本弥星先生、会場の準備をしていただいた「ごせんりーぐ」の金納平和さんに、感謝申し上げます。

大会熱戦譜

2025 年 春の大会

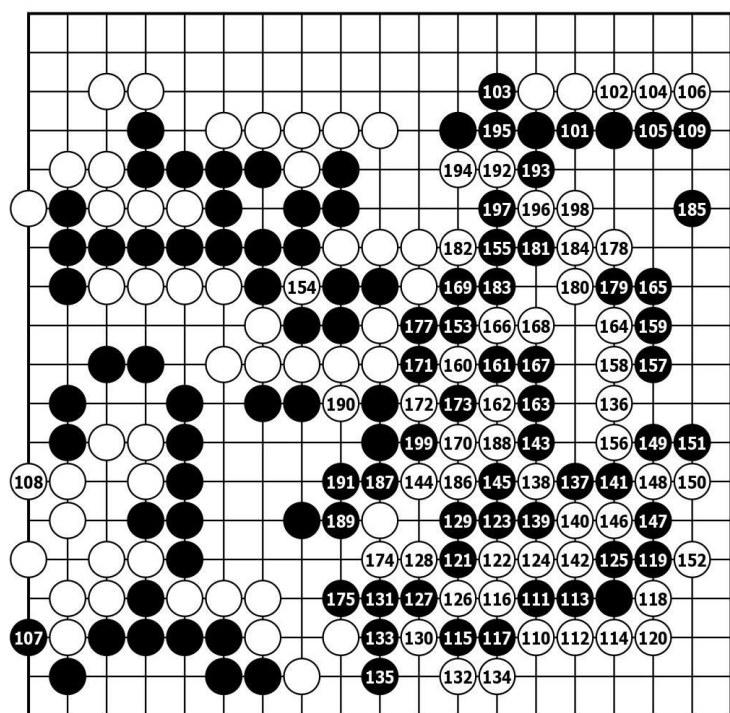
黒：加藤裕之 六段 白：西昌幸 七段（先）

第1譜(1～100)



- ・大会の優勝決定局。
- ・令和流の黒5ツケに対して厚みで対応。白18も重厚で西さんらしい。
- ・黒19ブツカリは凄い手だが少々問題。白20は軽い好手。
- ・白28は柔らかい発想。黒31は2子捨てられるのをうっかりしたか。
- ・白38はキリが残って薄い。白48までつらい生き方になった。
- ・白60～64と力を出してきた。ここではいい勝負。黒65は大悪手。
- ・白76ではスミのハネを打つべき。
- ・黒79、81は信じられない。白82からシボリを食らってひどいことに。
- ・白86は失着。黒先手生きになった。
- ・白92が敗因。白から打ったのに黒99まで黒がつながってしまった。

第2譜(101～199)



- ・白110は控えるのが相場。
- ・白116では117ブツカリが急所。黒ノビにはデて、左の白は死なない。
- ・黒125は欲張り。126とツイで3子は捨てるべき。
- ・白130では131とアテてから4子逃げれば白良し。
- ・黒135まで振り替わりとなり、この時点では形勢不明。
- ・黒141、143がよい対応で勝因。
- ・黒153は素晴らしい気迫。黒155となつては黒優勢。
- ・白156以下は勝負手。白164で170に打つ手があったようだ。実戦は黒正しく受けきって勝利確定。

(黒中押し勝ち)

176

第1回 ごせんりーぐ・下地会 交流戦

平本弥星プロ主宰の「ごせんりーぐ」と下地会の交流戦が、6月15日(日)に「囲碁サロンじょじょ」で行われました。参加者は9名ずつで、結果は右の通りです。

「ごせんりーぐ」は2011年に発足し、現在約60名の会員がいます。高段者が原則総互先で腕を磨いています。

交流戦ですので勝敗にはこだわりませんが、結果は下地会の負け越しとなりました。

中では助っ人の小嶋さんが2連勝と気を吐きました。岩田さんが久しぶりに元気な姿を見せられ、負けたとはいえ良い碁だったと平本プロも感心されていました。山日さんも2局とも半目負けだったとの由で、内容的には僅差だったと思います。

今後も定期的に行う予定ですので、ぜひご参加ください。

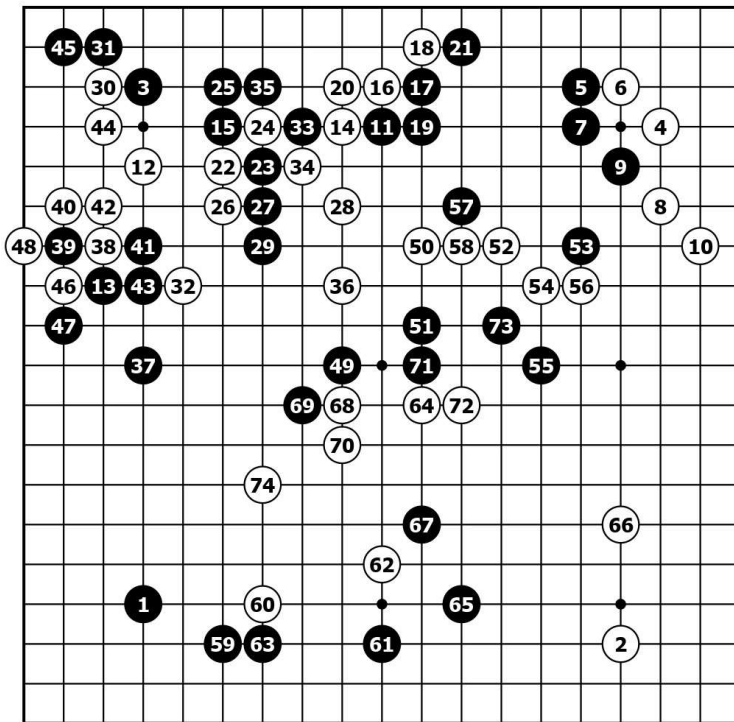
下地会	ごせんりーぐ			
	1回戦		2回戦	
岩田 哲夫	×	五味	×	南東
長南 一豪	×	九鬼	○	五味
伊東 勇二	○	南東	×	九鬼
芥川 長行	○	吉開	×	宮部
小嶋 孝輔	○	若松	○	吉開
山日 幸二	×	富士原	×	若松
加藤 裕之	×	亀岡	×	吉田
平野 高志	○	宮部	×	富士原
坂爪寿恵広	×	吉田	×	亀岡
	4勝5敗		2勝7敗	



交流戦熱戦譜

第1局 (1~74)

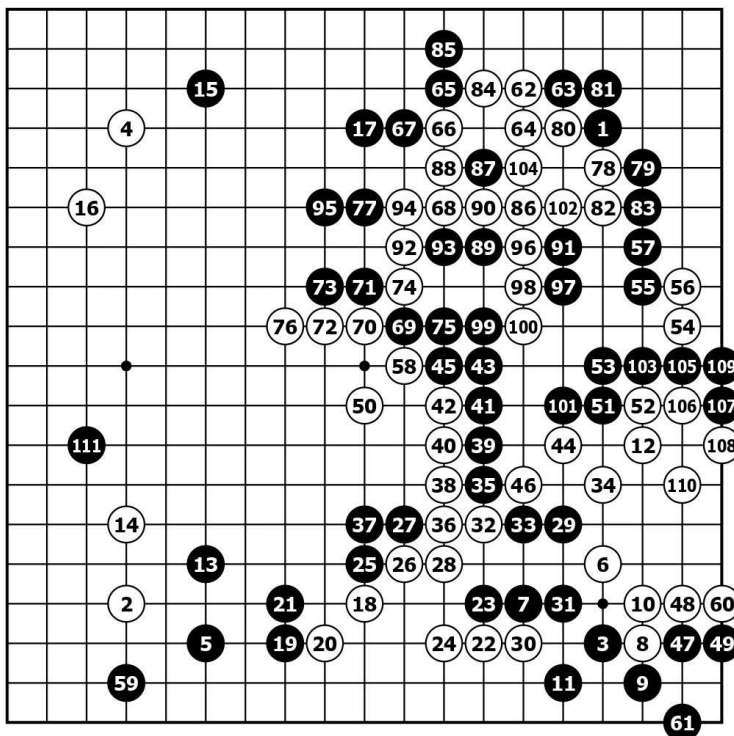
黒：五味(ごせんリーグ) 白：岩田哲夫(下地会)



- ・黒 13 の流行のハサミに対して白 14 は思い切った手。
 - ・白 18 二段バネは形だが、白 20 ツギは重い。カケツギがよかった。
 - ・黒 25 サガリは冷静な好手。黒 27、29 で白はシノギに追われる展開に。
 - ・白 34 では二路右にフクラミが好手。
 - ・白 48 までおさまったものの、形勢は黒良し。
 - ・黒 49 では左下 59 などと攻めを保留するほうがよい。
 - ・黒 55 は白を安心させて疑問。白 60 以下石が躍動し、白 74 の時点で形勢は接近している。
- (結果は黒勝ち)

第2局 (1~111)

黒：芥川長行(下地会) 白：吉開(ごせんリーグ)



- ・白 18 では左辺ヒラキが冷静。黒 19 は芥川さんらしい渋い手。
 - ・白 22 は重く、白 37 と一間トビがよい。
 - ・黒 25、27 は打ち過ぎ。白 38 と裂かれてはつらい。
 - ・白 44 は調子に乗った。対して相手せずの黒 45 が素晴らしい。白 46 も感情的で黒に生きられ地を損した。
 - ・白 58 は好点で形勢は互角。
 - ・白 62 は堂々だが猛攻を受ける原因に。
 - ・白 70 あるいは 80 で 85 にツケればシノギは楽だった。
 - ・黒 87 が必殺手。この時点で白にシノギはなさそう。
 - ・黒 93、99 は疑問で味悪になった。
 - ・黒 103 で 104 も成立したが、黒 103、105 は冷静。黒 111 に回って黒勝勢。
- (結果は黒勝ち)

(今回は、鈴木寿実子さんが作られていた旧会報から、懐かしい記事を紹介します)

下地会いまむかし

●会報19号 平成十五年より

研究会のこれまで

—そして、これから—

下地会が発足した年から始まった勉強会が翌年から『研究会』と名を改めて、田町の三菱自工喫茶室で開催されるようになったのは昭和六十二年のことでした。そしてこの三月まで、このように長い間続けられたのは、喫茶室のオーナーである坂東さんの御厚意のおかげなのは言うまでもありません。様々なにぎやかなイベントに大勢の方々が集まったり、大雪の日には七人だけが来て、炬燵を囲むように先生をまん中に碁の勉強をしたことなど、思い出がたくさんあります。今、坂東さんは喫茶室を閉鎖せざるを得ない状況をご自身が抱えながらも、下地会に暖かな励ましを送ってくださいました。

三菱自工喫茶室

坂東建三（五段）

去年の十月に三菱さんから、契約を今年の四月二十五日付で終わりにしたいと通達がありました。三菱自動車工業本社の品川移転が理由であります。喫茶室の再設の計画はありませんでした。

下地会は研究会の会場を失うことになりました。まことに寂しいものがあります。下地先生が、三菱自工囲碁部に初めて指導

においてになった昭和五十七年に喫茶室は出来ました。人事の課長さんが、私に、社員の厚生施設としての喫茶室を造りたいと話されたのです。私は当時、茶房トロアードなる喫茶店を営業して十六年になっておりました。好景気さなかのことです。一番のお得意様の要望ですから、どうしようなどと悩むゆとりはなく、協力したい一途でありました。三菱は良い環境を整備し、私共は良質のサービスを提供する。こうして契約は成立しました。茶房トロアードの従業員全員を編入して喫茶室はオープンしました。二年後に部屋は倍の広さになって時間外利用法が検討され、会社の囲碁部が使うようになりました。囲碁部の下地先生の指導は、お人柄と熱意による多くのファンを創りました。その少し後に発足した下地会には多数が入会し、「なんとか先生を応援したい」そんな皆さんの想いは、喫茶室を下地会に利用してもらおう、との提案となったのです。機を得たことではありました。

それから十七年間、月々の研究会は、歴代女性幹事さんのやさしさ溢れるお世話もあって、先生のご指導と会員相互の親睦を深めるに十分なものでありました。下地会が生まれてすぐすぐと丈夫に育った少年期でありました。青年期は次の場所から始まります。どのような会に更に成長するのか楽しみではあります。下地先生の御健勝と全会員の棋力向上に乾杯。

●会報11号 平成六年より

●角館（かくのだて）合宿●

合宿が近場の所だったなら参加できたのに、残念に思っている方には申し訳ない。すが、今回の角館合宿を終えてみて、参加した方々が大変満足しておられたことに、幹事一同ほっと胸をなでおろし嬉しく思っています。合宿という目的のある旅行は、もちろん碁を打つことが条件ですが、是非一度訪れてみたいと思つていた観光地に行つて、しかも気心の知れた仲間と大勢と夜通し碁も打てたという近ごろ二鳥です。ただ、距離的に遠い近いかかわらずそれが可能な所は多くはないのです。今回の合宿はその条件を満たしていました。故郷にUターンして一年半前に開いた大山さんの碁会所は角館駅のすぐそばにあり、黒板の続く武家屋敷町にふさわしく、倉を改造したしゃれた建物です。囲碁組はそのまま碁を打ち、観光組は町の見物に繰り出して一日目の午後を過ごし、夕食に一旦宿に帰ってから再び全員で碁会所に。夜も更けて、霧に霞んでいく秋の匂いのする道を二分ほど歩いて宿に戻り、部屋では明け方まで磁石盤で碁とおしゃべりといった具合。宿は私達で貸し切りなのも幸いです。次の日は快晴なので、午前中は田沢湖畔を一周して紅葉しかかった駒ヶ岳の勇姿を目に焼き付けました。午後は現地の方々を交えての対局で碁会所は満員の盛況。日頃は平均十人くらいのお客の入りとのこと。囲碁人口は東京より少ないように見受けられますが、女性で碁を打つ人が指導碁や解説など碁に没頭し、午後二時近く、名残を惜しみながら角館を後にしました。大山さんのお心配りのお蔭が多分にあるのかと思ひます。遠くまで行った甲斐のある、ますます碁との絆が深まった旅でした。

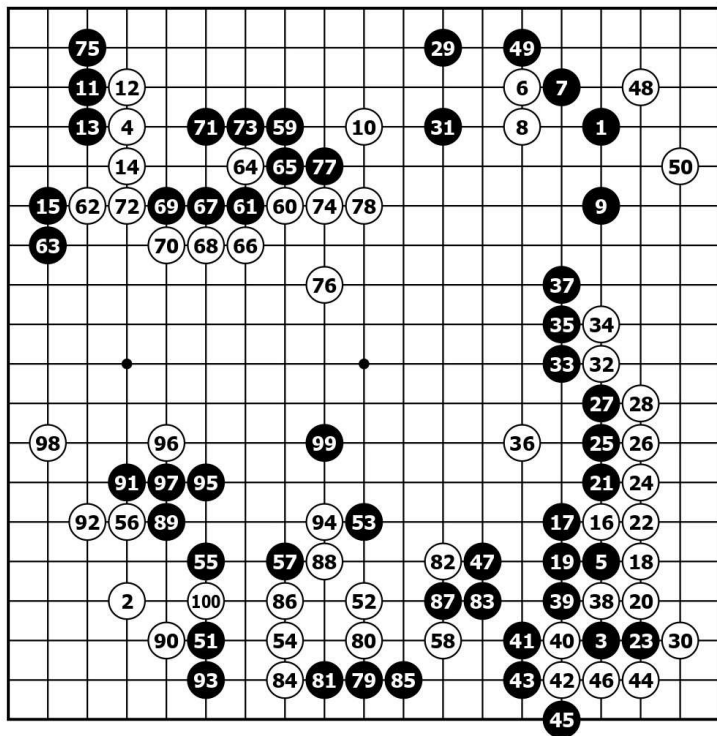
下地先生 最近の手合から

本因坊戦予選 C 2025 年 6 月 12 日

黒： 下地 玄昭 七段

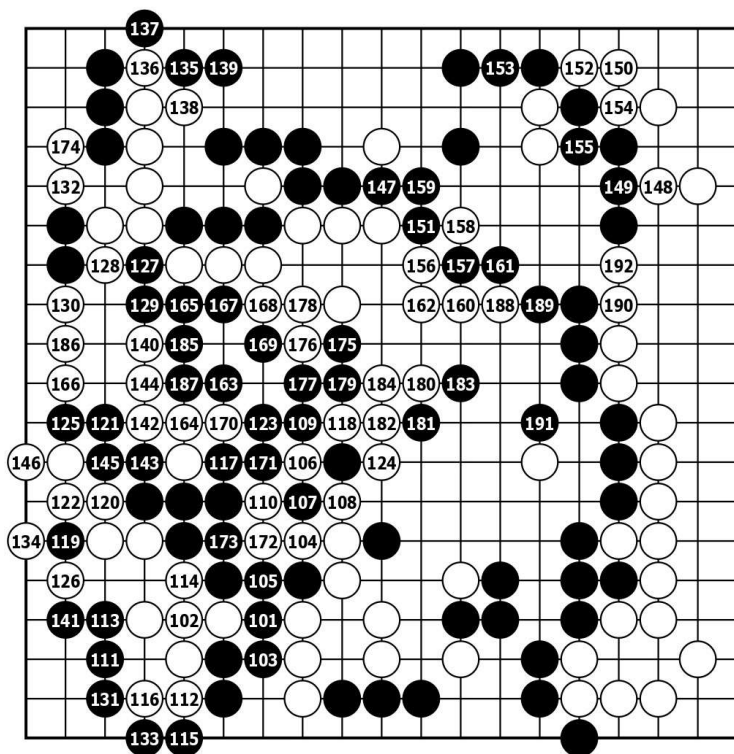
白： 張 栩 九段

第1譜(1~100)



- ・張栩九段とは初手合。黒 15 まで地に辛くを意識しました。
- ・白 22 ツギから右边を稼がれました。黒 25 は右边星下が面白い。
- ・上辺黒 29 に手抜きされ気合いの進行。
- ・黒 47 で一段落。形勢はほぼ五分です。
- ・下辺を封鎖しましたが、早めに黒 53 の右下へ一手かけるのが大事でした。
- ・上辺白 60 ボウシには平易な 77 ハザマが良かった。白 62 が好手。
- ・下辺黒 79 オキは勝負手ですが、中を補強して五分の形勢でした。
- ・白 80、82 が流石のシノギ筋。対し黒 83 が敗因。普通に上をオサエて手厚く打てば黒悪くなかった。
- ・白 88 と外を破られ攻守逆転。白 94 と裂かれ黒が苦しくなりました。

第2譜(101~188)

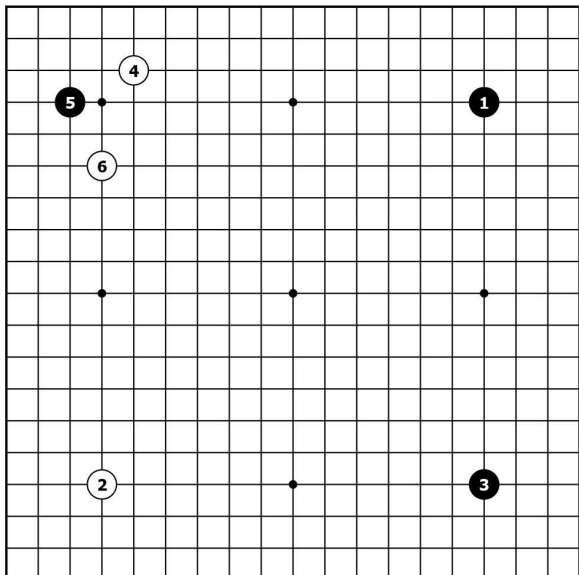


- ・ここから白の猛攻を受けます。白 106 と中をツケられ分断されました。
- ・黒 107、109 の必死の踏ん張りから、一転左下黒 111 はコウ立て作りの意味もありましたが成算はなかった。
- ・黒 113 の急所に対して白 114 はやや危険。隅の白は味悪となっています。
- ・一縷の望みを持ち黒 117 出。取りにできれば白と刺し違える覚悟です。
- ・白 122 グズミは隅の攻め合いに勝つための安全策。
- ・黒 125 から黒 127 切りが最後の勝負手。白 130 ハネがシノギの好手。黒 131 は時間つなぎでしたが、左上白 132 と妥協して良しとの判断。
- ・白 140 二子取りで一段落ですが、白が盤面でも良くなっています。

(結果は白中押し勝ち)

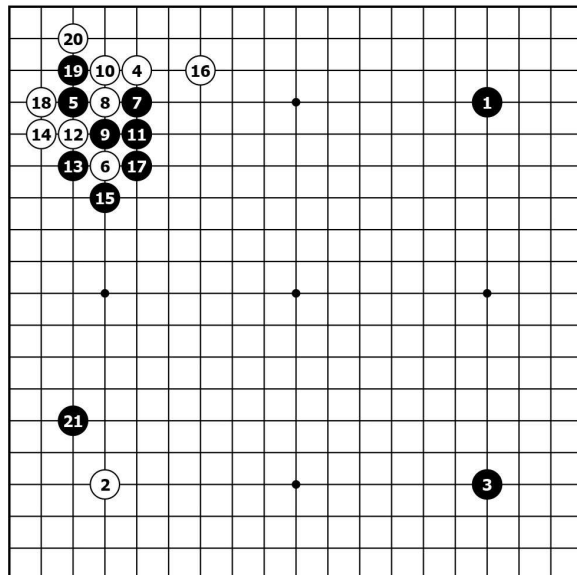
過去に打たれた定石や変化を振り返ってみます。①昭和の定説、②以前と今の下地の見解、③AIの判断を紹介し、比較・検討します。

図1



アマ時代に愛用した大斜ガケ。指導碁でも機会あれば試すこと多かったです。当時の思い出とともに検証してみます。難解な変化を含んでいて相手よりは詳しいとの自信はありました。

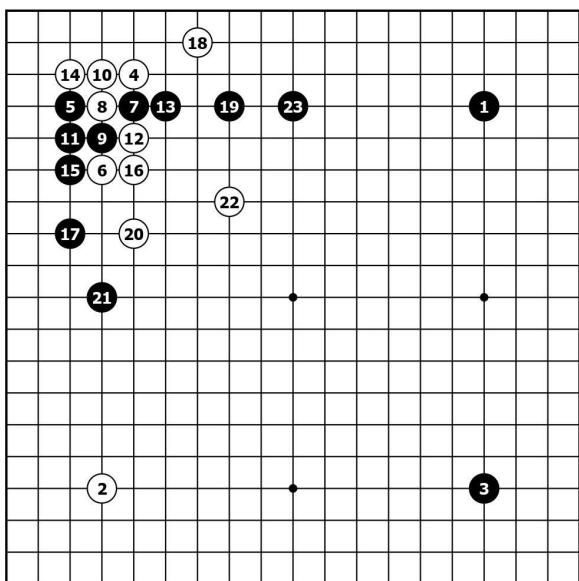
図2



黒11の上ツギは簡明策。白18まで実利の白が少し良いと思っていました。AIによると黒19から黒21カカリで黒54%とのこと。

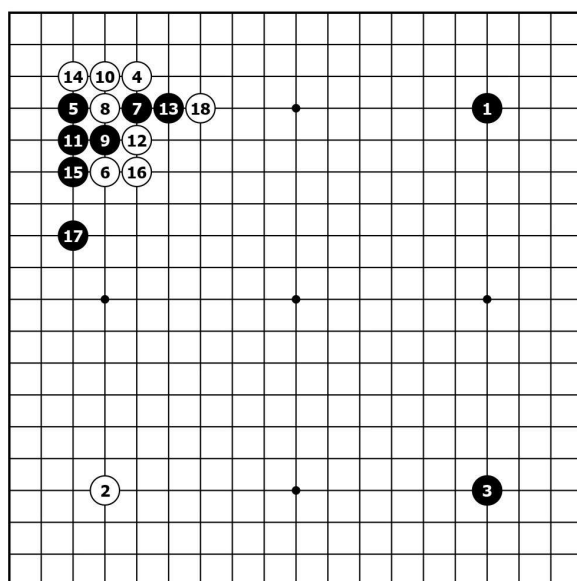
驚くことにAIは白18カカエでは黒15の左下に打てと。黒を重くする目的か。研究課題です。

図3



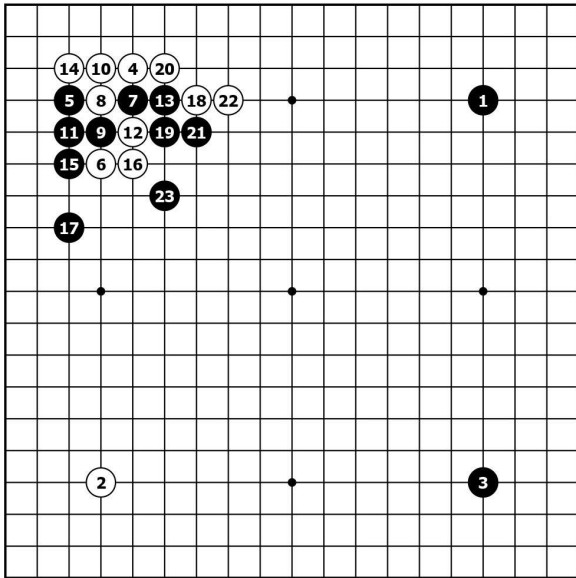
黒11の下ツギには、他の変化もあるが白16ツギが基本定石。黒23までなら穏やかな戦いです。黒19ではあっさり黒2子捨てる手段も有力。AIの評価は黒23の時点で黒58%となっています。大斜作戦はあまりよくないのですね。

図4



アマ時代、白18の鼻ヅケが大好きだった手。相手が正確に打ってもほぼ互角になるので「損のないハメ手」という感じ。この手の瞬間、AIは黒61%と白下落、相当損な悪手と断定しています。黒の正しい対応は？

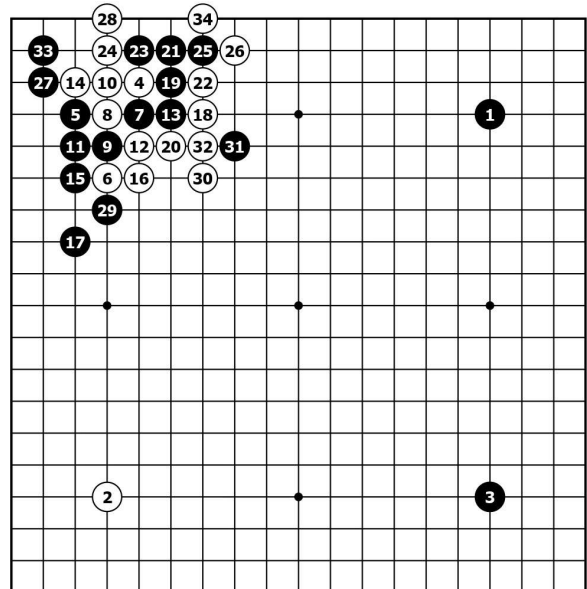
図5



黒19と外へ出る方は3分の1くらい。黒23まで、白3子を味良く取れていたら黒悪くないが、白から黒17の右にツケるとただでは済まず、大コウ勃発の可能性あり。白良しと信じていました。

AIの形勢判断は黒55%。ということは白の動き出しがあっても黒悪くないとのこと。う〜ん、今までの考えを洗い直す必要あり。

図6

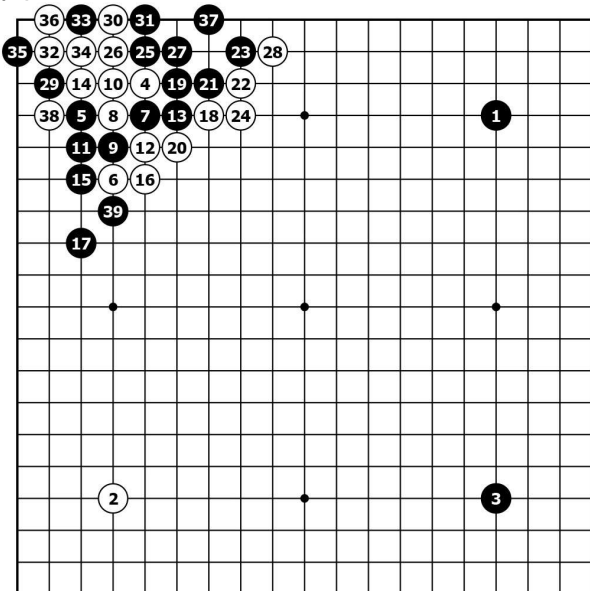


黒19に対して白22に打つのは図5に劣ります。白20オサエ、これは当時自力で発見した手。正しく対応する方が非常に少なかった。

黒23、25と打っても手数は伸びませんが、黒27ハネが捨て石の好手。以下白34まで石は取ったが隅の地が大きく黒良しです。

AIは黒76%と表示。指導碁でも捨て石にされ白が打ちにくくなった経験があります。

図7



取っても悪い図があるので、黒21とマゲてくれた方が嬉しい。対して初めは白22にハネていましたが、黒23、25が好手。黒31もうまく、黒39までが一例です。

一見互角風ですが隅をコウにする手段が残っているので黒良し。AIも黒断然良しとの見解です。なお黒27で28とノビる手もあります。

図8

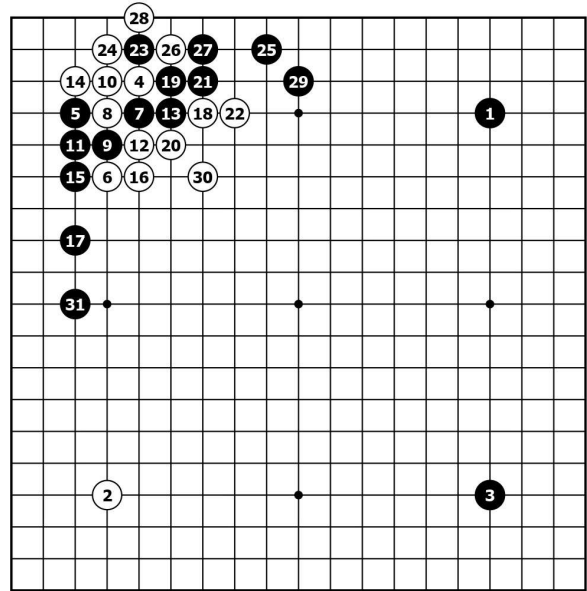


図7は悪いので代わりに白22ノビを採用。黒23ハネ一本から黒25ケイマが正しい。白はカミ取るくらいだが黒29と構えます。白は30などと補強が必要で黒31まで(他の手も可)。

結果は6:4で黒良しが私の見解。AIの評価は黒80%でした。元々白の隅で後から打った黒は両辺伸び伸びなのに比べ、白地は小さく中也攻められそう。確かにかなり黒良しです。

囲碁と和歌・俳句

長南一豪

現在私はXで和歌・俳句・漢詩のクイズを出題しています。その中から、囲碁にまつわる和歌・俳句を紹介します。

問題

- ① ()や蚊帳に碁を打つ老二人 「田福」
- ② 鼻たれて独り碁を打つ ()かな 「蕪村」
- ③ 碁は妾に崩されて聞く ()かな「言水」
- ④ 手さぐりの碁笥や板屋の () 「露沾」
- ⑤ ()をくたす山人帰り来て見るとも君が御代は変はらじ 「頼政」
- ⑥ 山路にてわが斧の柄はくたしてむ憂き世の中は () 果てぬれば 「行尊」
- ⑦ 斧の柄の朽つるも何かおどろかむこの世のことを () 忘れては 「中島広足」
- ⑧ 斧の柄も朽ちんこちす () 「道彦」
- ⑨ 沖つ鳥うといふ花のいかなれば () の色にもあやまたるらむ 「熊谷直好」
- ⑩ あながちに鵜とせりあはぬ () かな 「尚白」

正解

- ① (橘)や蚊帳に碁を打つ老二人
橘たちばなの香の中、蚊帳を釣って老人二人が碁を打っている。囲碁の別称「橘中の楽」をふまえた句で、実景ではないだろう。「橘」「蚊帳」は夏の季語。作者は江戸中期の人で蕪村の門人。
- ② 鼻たれて独り碁を打つ(夜寒)かな
いつものように独りで碁を打っているが、夜、肌寒い季節になり、鼻水がたれてきた。「夜寒」は秋の季語。
- ③ 碁は妾に崩されて聞く(千鳥)かな
有名句で各選集類に取り上げられているが、解釈が一定しない。冬の夜、碁敵と遅くまで打っていたら、「いい加減にしないさい」と妾に盤を崩されてしまった。千鳥の声を聞きつつ、今日はお開きにしよう。この解でいかが。「千鳥」は冬の季語。作者は元禄期の人。
- ④ 手さぐりの碁笥や板屋の(村時雨)
対局に夢中になり手さぐりで碁笥をかきまわす音は、板屋に降る村時雨のようだ。「村時雨」は初冬に降るにわか雨。蕉風とは異なる、談林派の見立ての句。
- ⑤ (斧の柄)をくたす山人帰り来て見るとも君が御代は変はらじ
仙人が碁を打つのを見ていた王質が、斧の柄が朽ちたのに驚き帰って来たら世の中がすっかり変わっていたという故事(爛柯)をふまえる。作者は平安末期の人で仁王の乱で敗死した。

- ⑥ 山路にてわが斧の柄はくたしてむ憂き世の中は(こり)果てぬれば
同じく爛柯を詠んだ歌だが、「こり」は「懲り」と「木を切る」意の「樵り」との掛詞。『続後拾遺集』所収。作者は百人一首歌「もろともにあはれと思へ山ざくら花よりほかに知る人もなし」で知られる。
- ⑦ 斧の柄の朽つるも何かおどろかむこの世のことを(うち)忘れては
同工だが、「うち忘る」(＝すっかり忘れる)に「打ち」を掛け「碁」の縁語にした。作者は江戸時代の人。
- ⑧ 斧の柄も朽ちんこちす(初暦)
初暦を見て思いをめぐらしているうちに、思わぬ時間が経ってしまった。同じ題材を化政期の俳人道彦はさりと詠んだ。「初暦」は新年の季語。
- ⑨ 沖つ鳥うといふ花のいかなれば(鷺)の色にもあやまたるらむ
「卯の花」は白いが、黒い鳥である「鵜」(あるいは「鳥」)を掛け、白い鳥である「鷺」と対比した。「鷺」は囲碁の別称。作者は江戸時代の人。
- ⑩ あながちに鵜とせりあはぬ(かもめ)かな
食欲に餌をあさる鵜に対し、かもめは悠々と空を飛び無理に競り合おうとはしない。芭蕉七部集の一つ、『猿蓑』所収。鵜は黒、かもめは白。手元の注釈では触れていないが、囲碁を詠んだ句ではなからうか。作者は本因坊道策と同時代の人であることを考え合わせると興味をそえられる。

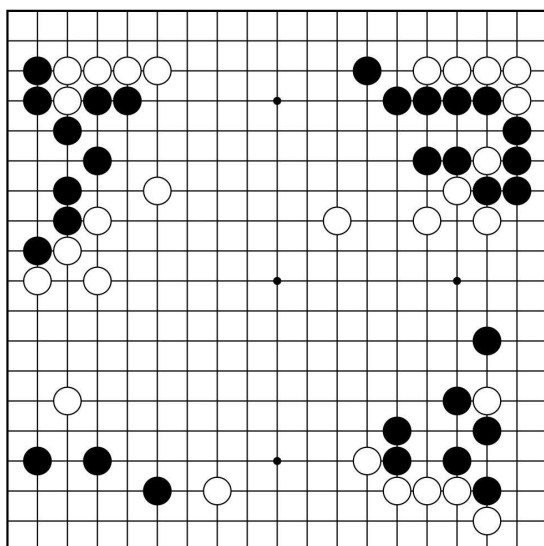
下地会 2025 年度上半期ベスト 10

全問黒番、正解は次のページ

2025 年 4 月～9 月に打たれた指導碁で、下地先生がブログに掲載したものの中から、ベスト 10 を選びました。次の一手形式となっていますが、「正解」には好手だけでなく、その人らしい手、ユニークな手も含まれます。予想してみてください。

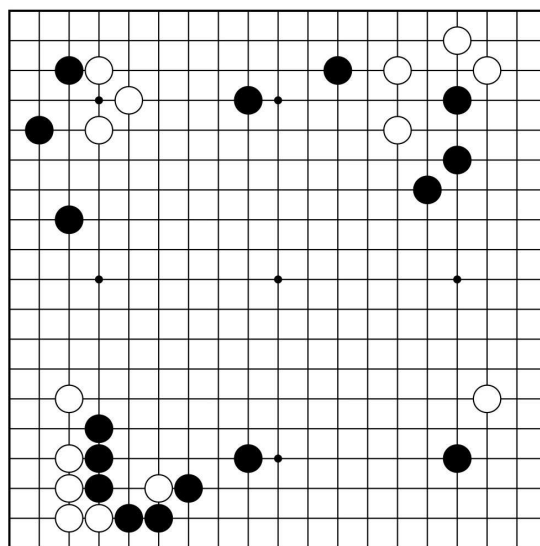
※下地先生・長南一豪の 2 名で選考しました。

1位 坂爪寿恵広さん(3子逆コミ)



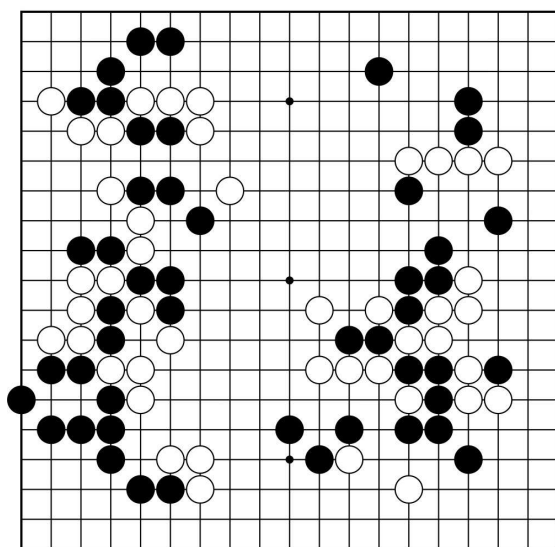
右辺の白を二間トビで逃げました。

2位 下川滋さん(3子逆コミ)



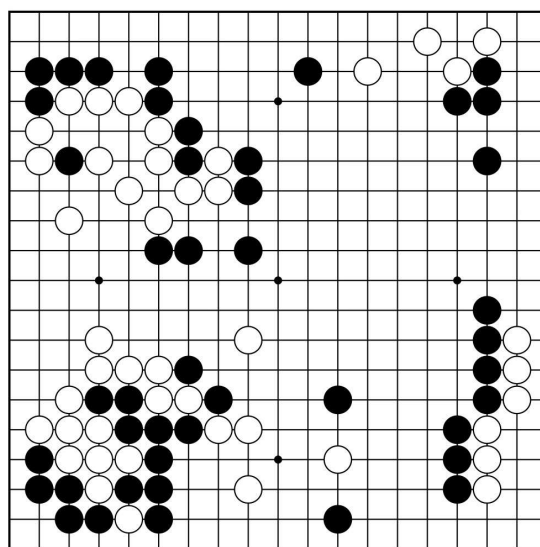
右下カカリに予想外の手を打たれました。

3位 加藤裕之さん(3子)



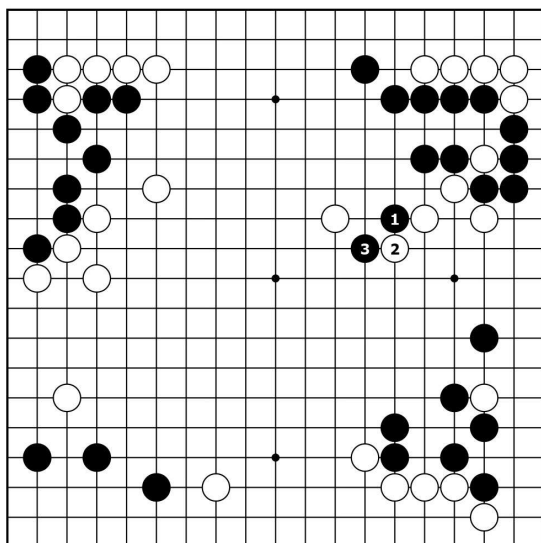
あちこち薄く黒の難局に見えます。

4位 大井さん(3子)



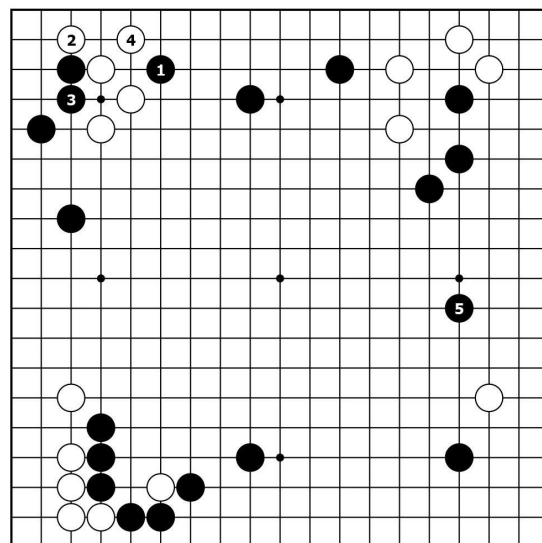
白が上辺をデたところです。

1位 坂爪さん 正解図



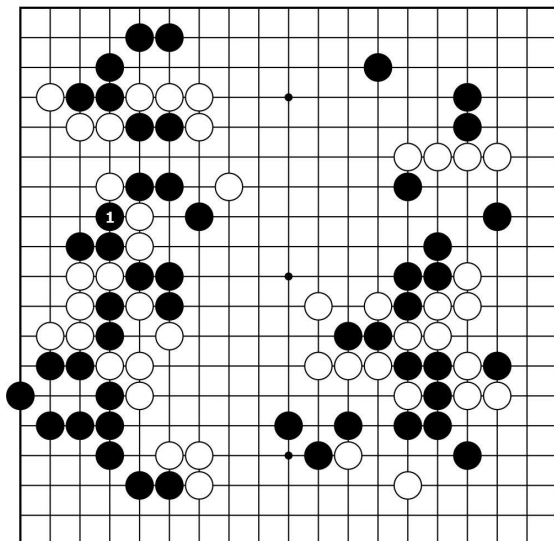
坂爪さんは大会や交流戦で腕を磨かれ、以前の本手主義から棋風を変えつつあります。右辺の白をのんびり逃げたときに黒1、3！この仕掛けには感動しました。強く戦ってこそ本手が生きるのです。

2位 下川さん 正解図



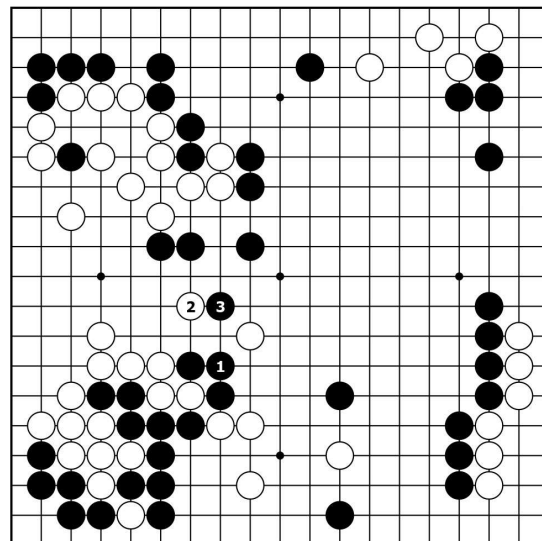
黒1カド、打たれた瞬間「うっ」と感じました。白2、4で厳しい攻めは喰わないが、上辺が先手で丈夫になり、右下に回りました。左上サガリなどでは上辺が薄くなり、白に主導権を奪われるおそれがあるでしょう。

3位 加藤さん 正解図



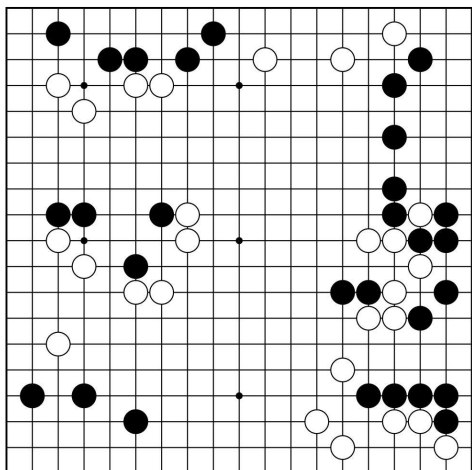
白楽観気味で、左上ハネから中央ケイマに迫ったのが大悪手。黒1の「三角切り」、パンチ炸裂です。見た瞬間、意図を察しました。加藤さんはこの手を見ていたから隅のオサエを打たなかったのです。一気に黒勝勢です。

4位 大井さん 正解図



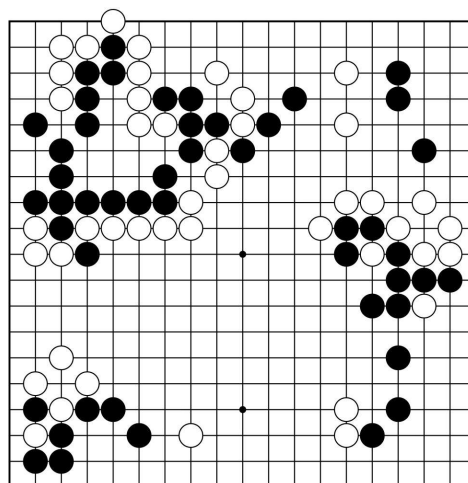
白のデがとんでもないそっぽで敗着。黒1ツギが成立しました。白2には黒3で黒3子はつかまりません。下辺白への「耳」の黒2子が最大限に働く進行に。この後白数子をもぎとって下辺は黒地になりました。

5位 池本淳一さん(3子)



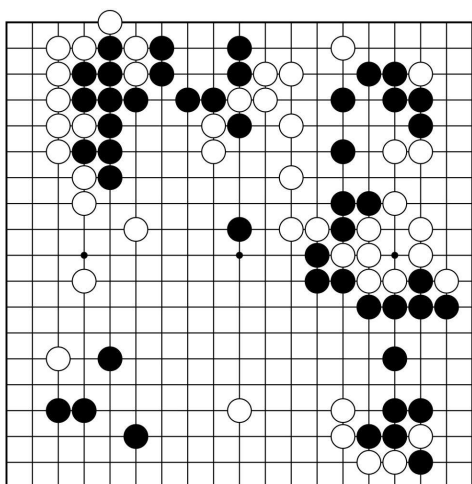
左辺をどうサバキますか。

6位 栗林幸子さん(4子)



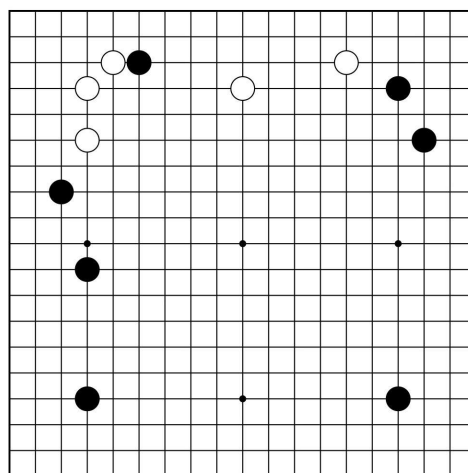
左上方面、黒苦しそうですが。

7位 古川和子さん(4子)



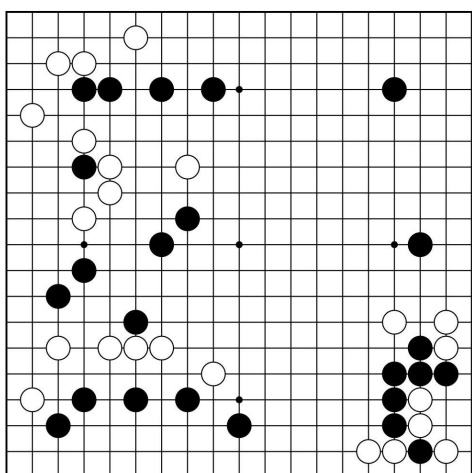
上辺は一段落、どこに目を向けますか。

8位 佐々木孝次さん(3子)



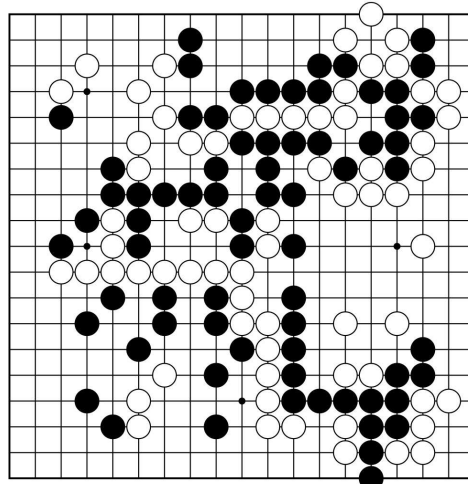
上辺の白模様はどう手をつけますか。

9位 伊東勇二さん(2子)



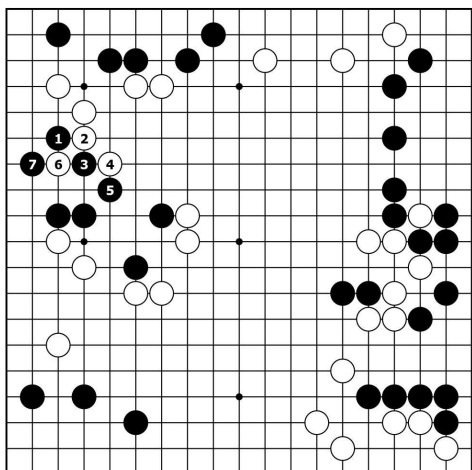
右辺、白はサバく調子を求めています。

10位 平野高志さん(3子)



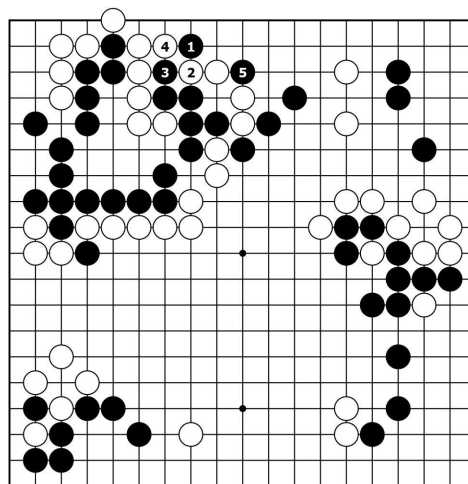
大きな戦いです。決断の一手は？

5位 池本さん 正解図



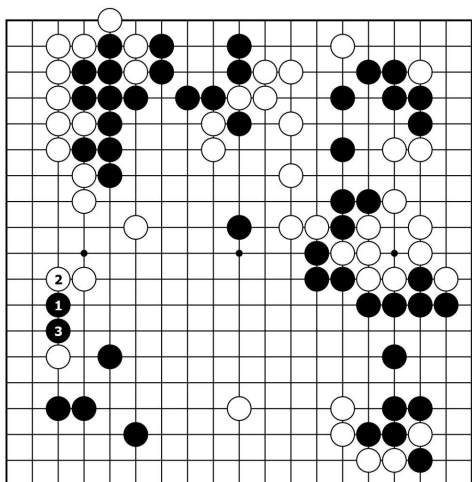
黒1カドから黒5ハネが好手。「サバキは斜め」の見本で見事にシノギ形です。

6位 栗林さん 正解図



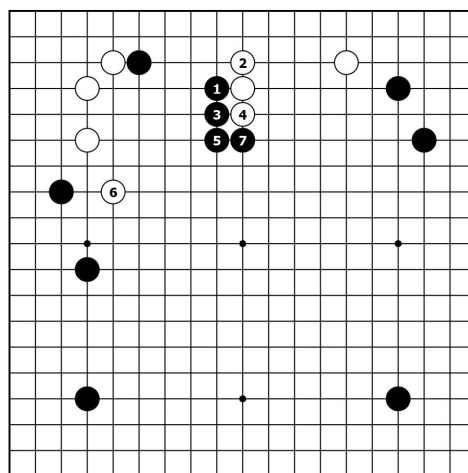
黒1の瞬間、電流が走りました。黒5アテコミが幻の妙手。この手を逃されたのは残念。

7位 古川さん 正解図



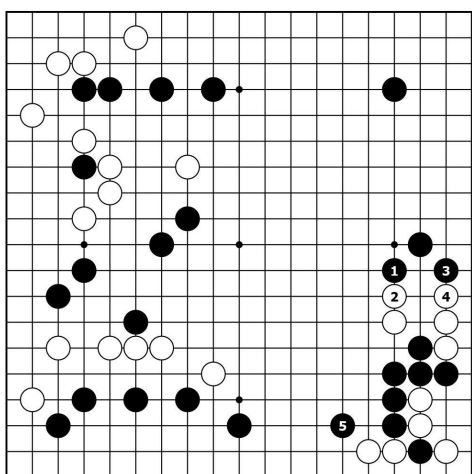
黒1カド！これは鋭い。白2受けなら黒3で一級の稼ぎです。

8位 佐々木さん 正解図



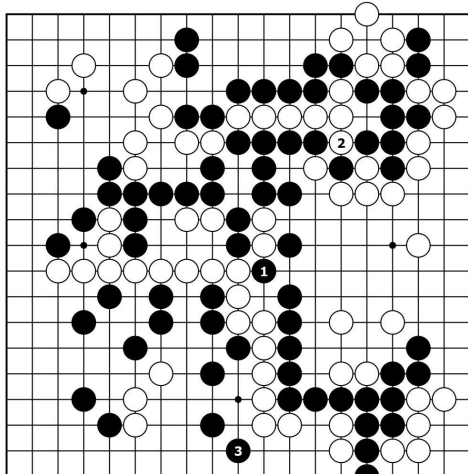
この手に限りませんが、黒1ツケがすばらしい。黒7まで進めばもう攻められません。

9位 伊東さん 正解図



軽いサバキを目指す白に対し黒1・3が辛辣。意に反して白はすっかり重くなりました。

10位 平野さん 正解図



出入り30目を捨て、黒1・3と大石捕獲に挑戦。残念ながら失敗しましたが、夢に乾杯！